

リスクコミュニケーションの取組み



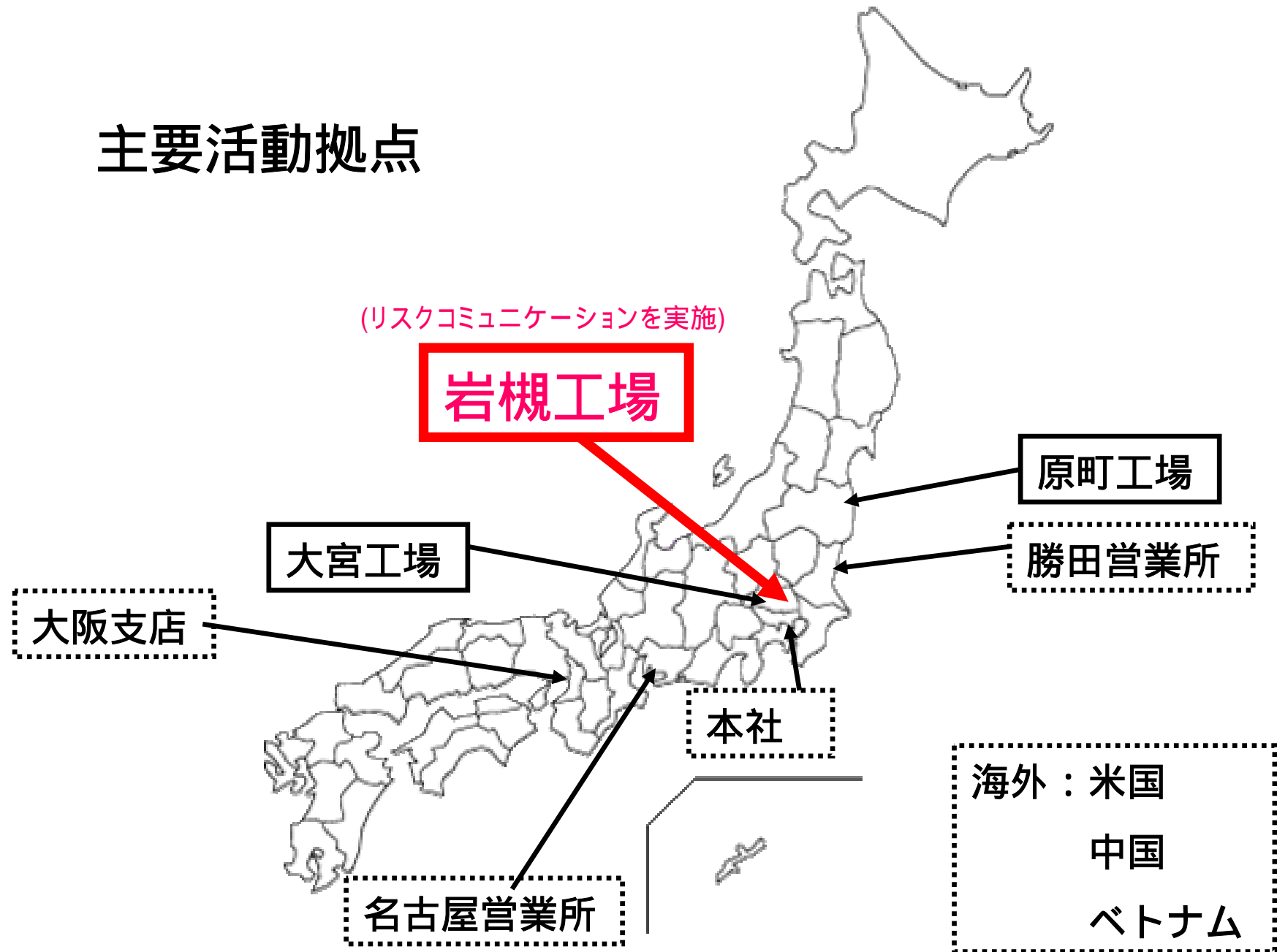
藤倉ゴム工業株式会社
岩槻工場

藤倉ゴム工業株式会社
環境安全室 室長 佐々木 清
2007年 2月 3日

会社概要

会社名	藤倉ゴム工業株式会社
創業	明治34年(1901年) 10月25日
設立	大正9年(1920年) 4月1日
資本金	38億429万円 (2006年3月31日現在)
従業員数	963名 (2006年3月31日現在)
事業内容	工業用品・制御機器・電気材料・印刷材料・加工品・引布 ・スポーツ用品等の開発及び製造販売
売上高	273億9500万円 (2005年度・連結)
本社	〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-20 藤倉ビル
大宮工場	〒330-0586 埼玉県さいたま市大宮区三橋1-840
岩槻工場	〒339-8510 埼玉県さいたま市岩槻区上野6-12-8
原町工場	〒975-0027 福島県南相馬市原町区上北高平字植松268
関連会社(海外)	Fujikura Composite America, Inc 杭州藤倉橡膠有限公司 Fujikura Composites Haiphong, Inc

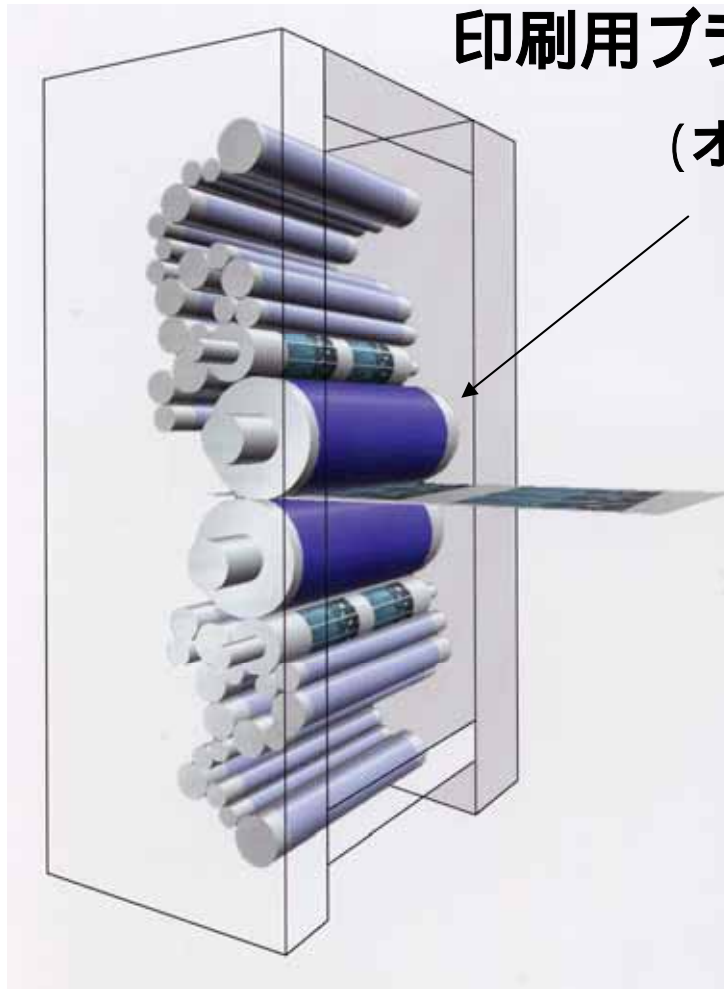
主要活動拠点



岩槻工場の生産品の例

印材事業部

印刷用ブランケット(厚さ1~2mmの特殊なゴムシート)
(オフセット印刷用ロールに巻き付けて使用)



ブランケット断面の拡大写真
Magnified cross-section of a printing blanket.



ブランケット表面の拡大写真
Magnified front view of a printing blanket

印刷例:印刷会社様で写真の様な
商品の印刷に使用します。



岩槻工場の生産品の例

電材事業部(藤栄産業株式会社)

加工品事業部

絶縁テープ類



救命筏

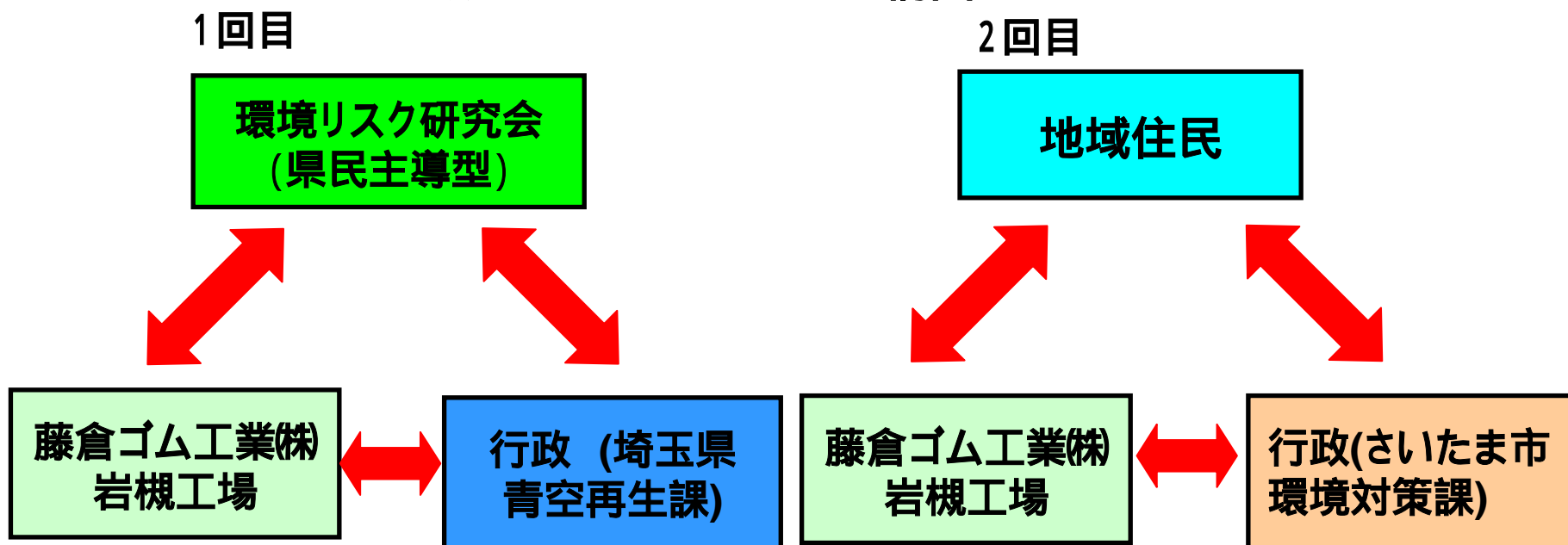


救命いかだ
Life Rafts

何故リスクコミュニケーションを実施したか

当社の岩槻工場は製品製造工程で化学物質である溶剤のトルエンを使用しています。その工程で、溶剤ガスを大気に排出しており、P R T R法に基づく届出、情報の公開もされておりますがその中で**近隣への不安解消、環境リスク軽減**を視野に入れ県民主導型、地域住民対象の2回に渡るリスクコミュニケーションを実施致しました。

リスクコミュニケーションの構図



意見交換会風景



環境負荷軽減活動報告

VOCガス排出量の推移

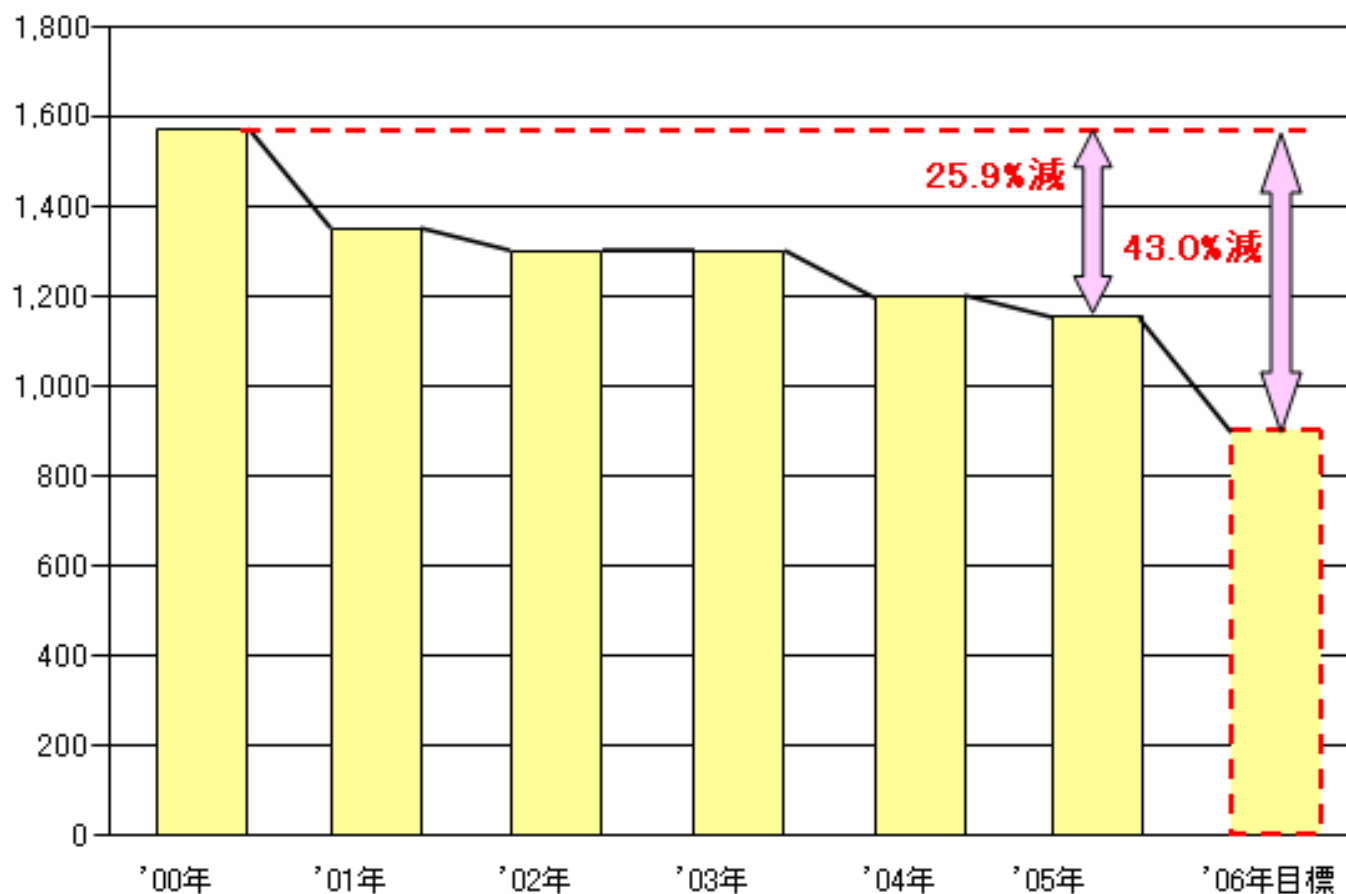
(VOC : volatile organic compounds)

2010年度までに2000年対比

国の目標値 30%削減

ゴム工業会目標値 35%以上削減

(ton/年) トルエンの排出量



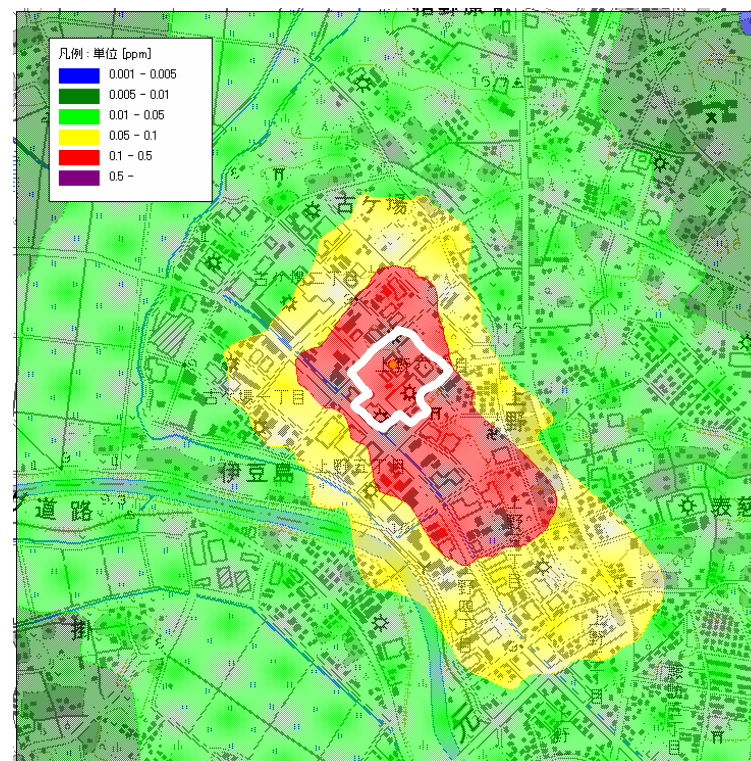
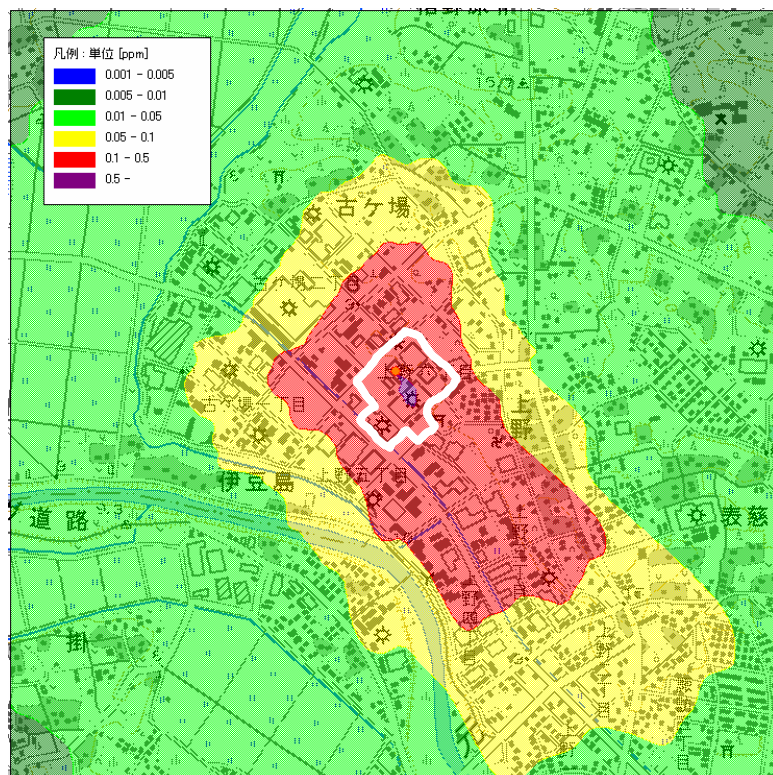
トルエンの大気拡散シミュレーション

使用ソフト : METI-LIS ver.2.02 (経済産業省、産総研)

気象条件 : 2004年1月1日~2004年12月31日 (2004年1年間)

排出量 : 1,200t/年の場合
最大濃度 : 0.56 ppm (2.17 mg/m³)

排出量 : 900t/年の場合
最大濃度 : 0.41 ppm (1.60 mg/m³)



リスクコミュニケーション実施後の社内の効果

- 1、岩槻工場で使用の化学物質であるトルエンの溶剤購入量、排出量を削減することを、担当部門、施設部門が今まで以上に本気で取り組み始めた。
 - 2、毒物、劇物、危険物の管理が今迄以上に表示、施錠、購入、使用確認が明確化され始めた。
 - 3、3Sである整理、整頓、清掃が工場内で今以上に実施されるようになった。
 - 4、岩槻工場の廃棄物リサイクルに関して担当部門が率先してやるようになった。研磨粉年間 110 トンのリサイクル化を推進し始めた。
 - 5、地域住民から出る苦情処理の対応が対策まで早期に取れるようになった。
 - 6、他工場も地域住民との交流が出始めた。特に自治会との交流。大宮工場では自治会の総会などに参加し始めた。
 - 7、大宮工場では悪徳商法の説明会に地域住民の方も参加された。
- 以上のように化学物質の管理と地域住民との係り方が増えてきています。

リスクコミュニケーションの実施を今後どのように考えて行くか。

岩槻工場は工業団地内にあるため工業団地会を中心に年1回くらいの割合で団地会メンバー、地域住民、環境リスク研究会、行政に対し意見交換会の形で進めて行きたいと考えております。

終了